

第36週の発生動向 (2009/8/31 ~ 2009/9/6)

- インフルエンザについて、迅速診断キットによる各保健所管内の内訳は、東地方+青森市 (A:15人, 不明:1人、弘前 (A:16人)、八戸 (A:6人, 不明:1人)、上十三 (A:3人, B:1人)、むつ (A:2人) でした。
- 手足口病については、東地方+青森市及び弘前、むつ保健所管内において、前週に引き続き**警報**が、発令されています。

第36週五類感染症定点把握

注：五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)		定点数					
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点
小児科 内科 (85) インフルエンザ	16	1.1	16	1.1	7	0.5			4	0.4	2	0.3	45	0.7	6			16	1.3						
小児科 (74) RSウイルス感染症			2	0.2	4	0.4			3	0.5			9	0.2	4										
(75) 咽頭結膜熱	1	0.1	1	0.1									2	0.0	-2			1	0.1						
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	0.7	8	0.9	6	0.7	1	0.2	9	1.5	3	0.8	33	0.8	5			6	0.8						
(77) 感染性胃腸炎	26	2.9			7	0.8	5	1.0	16	2.7	8	2.0	62	1.5	-8	5	5.0	21	2.6						
(78) 水痘	10	1.1	3	0.3			1	0.2	3	0.5			17	0.4	2			10	1.3						
(79) 手足口病	37	4.1	45	5.0	6	0.7	9	1.8	11	1.8	21	5.3	129	3.1	-37	6	6.0	31	3.9						
(80) 伝染性紅斑	3	0.3			1	0.1			1	0.2			5	0.1	2			3	0.4						
(81) 突発性発疹	5	0.6	6	0.7	4	0.4	3	0.6	10	1.7	5	1.3	33	0.8	6			5	0.6						
(82) 百日咳			1	0.1									1	0.0	1										
(83) ヘルパンギーナ	10	1.1	12	1.3	7	0.8			1	0.2	1	0.3	31	0.7	-1	6	6.0	4	0.5						
(84) 流行性耳下腺炎	3	0.3			1	0.1	1	0.2			1	0.3	6	0.1	-8			3	0.4						
眼科 (86) 急性出血性結膜炎															0										
(87) 流行性角結膜炎							1	1.0					1	0.1	-3										
基幹 (85) マイコプラズマ肺炎					3	3.0							3	0.5	-3										

保健所名	定点数			
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	眼科	基幹
東地方	2	1	0	0
青森市	12	8	2	1
弘前	15	9	3	1
八戸	14	9	2	1
五所川原	7	5	1	1
上十三	9	6	2	1
むつ	6	4	1	1
合計	65	42	11	6

は警報、は注意報。「空欄」：患者発生無し。

表 以外の感染症法対象疾患 (注：届出数は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患)：弘前3人 (21年計：243人)
- (14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患)：弘前2人、青森市2人 (21年計：25人)

病原体検出情報

()内の日付は検体採取日です

・弘前地域における手足口病患者1名(8/24)の咽頭ぬぐい液から、**コクサッキーウイルスA16型**が検出されました。
 過去の全数把握疾患については、月報をご覧ください。

感染症の窓

腸管出血性大腸菌感染症

(三類全数把握)

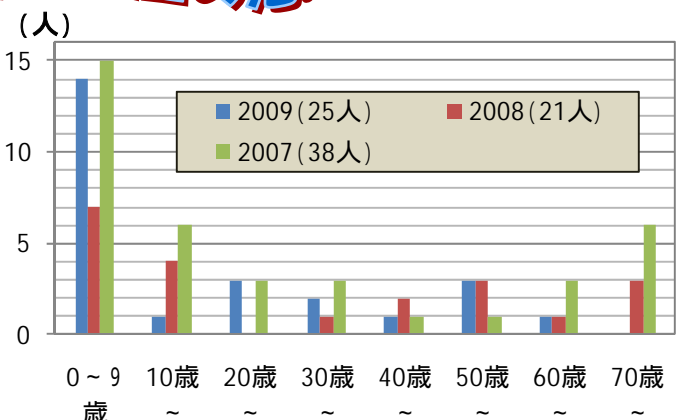


図1 年齢別届出数 (青森県) (2009年: 1-36週)

表1 保健所管内別血清型別 (2009年: 1-36週)

	O111	O157	O165	O18	O26
東地方+青森市		4	2		
弘前		1		1	3
八戸		3			
五所川原					5
上十三		3			
むつ	3				

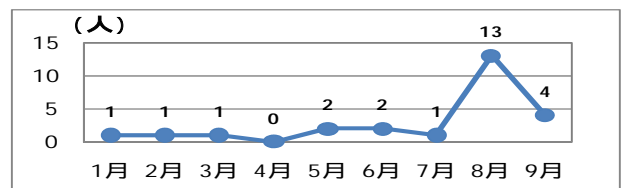


図2 月別届出数 (青森県) (2009年: 1-36週)

青森県では、2009年9月現在の累計が25人と昨年を上回る届出数で推移し、年齢別では9歳以下に多く見られています(図1)。血清型別では、O157が最も多く次いでO26、O111が見られています(表1)。月別推移では、8月に13人、9月は、第36週(8/31~9/6)において4人の届出数であることから、今後も注意が必要です。